

ジェンダーの地誌学に向けて

ジャネット・タウンSEND

(吉田 雄介 訳)

Janet G. TOWNSEND

Towards a Regional Geography of Gender
The Geographical Journal, 157, 1991, pp. 25-35.
© 1997 by the Royal Geographical Society

要旨 ジェンダーの地理学は、一般に認められた研究分野となったものの、地域的アプローチregional approachを欠いており、いまだ、地誌学に含まれないままである。ローカリティから世界・スケールまで、その地理学的文脈にジェンダーを配置することが地理学者には望まれる。つまり、地域記述と地域比較が必要とされる。既存のインテンシブな調査の助けによる、体系立ったデータの確立と、家父長制的取り引き関係patriarchal bargainsないしは空間的分業のような体系づけられた枠組みが必要とされているだろう。経済活動のならびに性比のジェンダー化gendering;についての事例研究は、ジェンダーの視点を持った地域アプローチの難しさと可能性の双方を明らかにする。

キーワード：ジェンダー、地誌学、家父長制的取り引き関係、空間的分業

1988年、国際地理学連合International Geographical Unionは、ジェンダーに関する研究グループを設立した。これは、1970年代以降の地理学におけるひとつの確固たる分野の発展を示し、そこには、あらゆるスケールならびに多くの諸国における研究がみられる(Lee, 1990)。そして英国は、その初期から重要な貢献を果たしてきた。いまなお比較的未発展の領域は、地域間ならびに諸スケール間の比較を拡張するであろう地誌学である。

本論文は、ジェンダーの地誌学について論じ、「空間的分業」(Massey, 1984)という概念がこのステージにおいてひとつの有益な体系的枠組みを生み出すであろうことを示唆しようと思う。本稿では、ジェンダーの地域間比較研究の特に乏しい、低所得諸国からの事例研究を使用する。そして、個々の事例においてのみならず、世界規模において、地理学がジェンダーにと

って重要であり、またジェンダーが地理学にとって重要であるということを示すつもりである。幾つかの困難な問題点が、国際的、国内的そしてローカルな諸スケールにおいて例示されるだろう。

男女をともに地図化したジェンダーのアトラスは未だ存在しないが、合衆国の女性に関するアトラス(Gibson and Fast, 1986; Shortridge, 1986)は、国家レベルでかなり達成し得ることを示しており、世界レベルでの女性のアトラスは、我々がこの先進むべき道るのがいかに遠いのかを示している(USAID, 1984-5; Seager and Olson, 1986)。Joni Seager and Anne Olsonは、フェミニストアトラス、『*Women in the World*』(1986)を編集したが、多くの地図が断片的(例えば、レイブに関する)あるいは検討の余地のある(例えば、農業における女性の労働)データに依存しているということを認めざるをえなかった。この欠落は、地理学だけに限られたものではない。つまり、ジェンダーと開発に関する非常に広範な社会科学の研究(Radcliffe with

Townsend, 1988; Townsend, 1988) の弱点は、空間、場所ならびにパターンの比較分析である (Brydon and Chant, 1989)。

ジェンダーの地誌学?

《対象》 ジェンダーの地誌学は、あらゆる場所やスケールにおいていかにジェンダーが地理学にとって重要であり、そして地理学がジェンダーにとって重要であるのか、ということを示すだろう。ジェンダーについての考察は、「新しい」地誌学の欠くべからざる一部をなし、ジェンダーに関する研究は、その概念の発展の一端を担っている (Pudup, 1988; Sayer, 1989)。伝統的な人文地理学者たち同様、単に場所についての関連諸事実を収集するに過ぎないにしても (Pudup, 1988)、我々はこの定義の下に、階級、エスニシティ、性的嗜好によって、デリー、ダラムならびにデトロイトで生まれた男性や女性にはどのような人生の選択肢があるのかを考えに入れなくてはならないのである。我々は、場所ごとにいかに差異が生まれるのか、それらがローカル、リージョナル、ナショナルのいずれのスケールにあるのか、何がそれらを維持し、そしてそれらがどのように変化しつつあるのか、についてもまた知っておくべきである。我々は、他の人間的および環境的な多様性の文脈中に、空間におけるジェンダーの多様性を設定することが可能だ。ジェンダー、つまり男性性と女性性とみなされるもの、という構築物において空間的差異にそれらがいかに関係するのか。逆に、地理学者が場所を記述する際、その場所において人々がジェンダー化されるその仕方は、鉱物資源や都市構造に寄与するのとまったく同じほどに、その場所のあり方に寄与する。すなわちジェンダーは、地域記述の一部であるべきである。

地誌学は、一群の諸スケールで、エクステンシヴな調査とインテンシヴな調査を結びつけることができる。我々は、双方の調査を必要としている (Sayer, 1984)。すなわち、エクステンシヴな調査は、人口全体の共通特性と一般的傾向を考察する。インテンシヴ調査は、限定された数の事例において、幾つかの因果プロセスを検討する。性別、国別、地域別による、あるいは一地域内のローカリティについての平均余命を地図化するために、入手可能なら、平均余命に関するエクステンシヴなデータを用いることができよう。あるいは、

長い人生のジェンダー化された経験が場所によって大きく異なることから、所与の平均余命が特定のローカリティにおける男女にとって何を意味するのかを問うために、まったく別の、インテンシヴな方法論を用いることができる。エクステンシヴなデータは、しばしばインテンシヴな調査のための文脈を提供する。ジェンダーの地誌学に必要なエクステンシヴなデータの幾つかは、表1に示される。それらは、ひとつの文脈、つまり必要差し迫った比較のためのひとつの枠組みを生み出すだろう。

《用語法》 我々は、まず幾つかの有用な概念を定義する必要がある。社会学者たちは、場所によってさまざまに異なる男女の間の社会的に構造化された差異と関係を、ジェンダーと呼称している。性sexは、決して地理学を持たない。つまり、子供をもうけるセックスには空間的変異はまったく存在しない。一方、自分の妻に対する男性の権利、あるいは自分自身の出産調整に対する女性の権利は、地域ごとに異なる。それゆえ、「男性性」と「女性性」を生じさせる。

それどころか、いくつかの物理的な差異 (表1) は、社会的に生み出される。良好な栄養物摂取は、結婚適齢期を低下させ、潜在的出生率を高める。また、良質の胎児検診は、より脆弱な男子の胎児を生存せしめ、それによって人口に占める男性の割合を高める。また、出産時のストレスの低減は、男性よりも長生きすることを女性に可能ならしむる。そして、最新の産科技術と性転換の外科医学は、出生率と平均余命の両方を変えうる。

ジェンダー役割 gender roles は、誰が、何を、どこで、いつ、そしてどのように行うのかを表現する。つまり、性別間で、労働、余暇、そして権力がいかに分かれたるのか。ジェンダー関係 gender relations は、英国を事例にした Sarah Whatmore (1990) やペルーを事例にした Sarah Radcliffe (1986) のような地理学者によって検討されたように、性別間の権力関係である。ジェンダー役割と関係においてのみならず、ジェンダー化された経験ならびにジェンダー化された空間と自然の利用においても、明らかにたいへんな地域的変異が存在する。こうしたテーマは、地理学の最近の展望

表1 ジェンダーの地誌学にとってのエクステンシヴ・データ

(各分野について、他の関連を有する社会経済的変数の文脈中で検討されるべく選ばれた諸例)

これらの諸変数は、理論上は、ローカルから国際的な全スケールで地図化されることが可能であるが、そのデータはしばしば入手不可能である。(大多数は、局所的には用いられているが、アスタリスクが付されたもののみが国際的規模で広く利用可能である。ただし、その精度と比較可能性はまだまだ貧弱だろう。) 諸変数の分類は、必然的に大雑把なものであり、項目間の重複は激しい。ジェンダー内の差異は、しばしばジェンダー間の差異と同様に重要である。

空間的分業のジェンダー化：だが、なにを、いつ、どこで、そしてどのようにするのか？ (ジェンダー別のあらゆるデータ)

時間収支

無給労働：就業率、活動の種類、その労働のシェア

有給労働：フル・タイム：就業率*、労働力のシェア*、失業

有給労働：パート・タイムおよび／あるいは臨時雇い：就業率、労働力のシェア

有給労働：独身、既婚および離婚者の就業率、ならびに扶養する児童の年齢と人数別の就業率

職業的・産業的集中および分離

生涯労働期間

所得、所得配分、賃金／稼得所得

労働組合参加

社会保障ないし保険によるカバー率

政府扶助に対する依存の割合

財産の所有権、用益権、信用貸付へのアクセス

スポーツを含む、余暇時間、余暇活動

セクシュアルな契約のジェンダー化

各セクシュアリティの割合 (ゲイ、レズビアン、バイ・セクシュアル、ヘテロ・セクシュアル)；ジェンダー・アイデンティティの範囲

ジェンダー別の法定婚姻年齢および平均初婚年齢

婚姻率、離婚率

慣習法による結婚、見合い結婚の普及率

成人の比率：ジェンダーおよび年齢別の未婚者、既婚者、離婚者、寡婦・寡夫

未婚女性の出産、10代の女性の出産、子供のいない割合、養子縁組み

世帯構成、女性世帯主の比率、独居者の割合

ジェンダーおよび年齢別の買春の割合

暴力：加害者および被害者のジェンダー別の、配偶者に対するレイプの発生率、殺人、暴行、近親相姦、児童虐待の発生率

ジェンダー別の、性器切除 (少女の陰部切除ないし陰部封鎖、少年の去勢)

空間のジェンダー化

ジェンダーおよび年齢別の、私的な空間、活動空間 (日常・生涯)、輸送機関の利用 (公・私)、および人口移動

ジェンダーおよび年齢別の、都市・農村地域の性比

婚姻者の居住地および通婚距離

ブルダ、隔離、およびヴェールの発生・着用率

配偶者以外によるセクシュアル・ハラスメント (性的嫌がらせ)、レイプ、暴行、殺人；加害者と被害者のジェンダー別の家庭、職場、および公的空間における発生率

国家によるジェンダー化

正規の政治権力：(ジェンダー別のあらゆるデータ)

選挙権*、登録有権者、政党のメンバーシップ

政府、議会、行政府の公務員

法的権利：

ジェンダー別の個人の権利

機会均等、同一賃金、その他の権利*

ゲイの権利

母親の権利および父親の権利；妊娠中絶の権利

ジェンダー別の、親権および結婚の権利；離婚の権利

相続権

ジェンダー化された政府の諸施策：例えば徴兵制度、出産手当、検閲

福祉のジェンダー化（ジェンダー別のあらゆるデータ）

平均余命*、中央値

死亡率（原因および年齢別、妊産婦*および乳幼児*死亡率を含む）

異性間で伝染する疾病を含む、罹病率、生殖不能症の発症率

認定障害

保険医療、例えば予防注射

思春期の栄養物摂取

自殺率、犯罪率、アルコール依存症、その他

生物学的再生産のジェンダー化

性比*（特定の年齢および全体の）

避妊法（種類、使用の可能性、使用の水準*）、妊娠中絶率*

総出生率（女性*；まれに男性に関するデータも含む）

出生比*（成人女性1、000人あたりの5歳以下の児童数）

男児ないし女児の選好、ジェンダー別の嬰兒殺し

社会の再生産のジェンダー化

子供、老人、慢性病患者のための介護施設

教育：（ジェンダー別、および可能ならば年齢別の、あらゆるデータ）

識字率*

就学率*

教育程度の達成度および専門化のレベル

学年、科目および生徒のレベル別の教師数

宗教

宗教的固執：ジェンダー・アイデンティティ、行動空間および機会に対する意味

ジェンダー化された習慣：例えば

ジェンダー化された組織、例えばクラブ

ジェンダーとセクシュアリティに関するマスコミ媒体（メディア）の表象

レイプおよび妻への暴力に対する姿勢

持参金ないし婚資

親族体系

多様性：ローカリティ内、地域内、あるいは国家内

エスニシティ

抵抗：変化のジェンダー化

既存のジェンダーの構築を変えようと努める組織

暴力を加えられた配偶者、レイプの被害者に対する避難所

Jones, 1989; Grunfest, 1989; Mackenzie, 1989)。

ジェンダー役割の記述の中で弁別はたいていの場合、(通例、市場向け)生産に従事する労働と、人間・社会の社会的・生物学的再生産にかかわる労働の間でなされる。ジェンダー不平等についての説明の多くは、生産ないしは再生産のいずれかを分析上優先させたり、または一方が他方を決定することができる機能的な統一性としてそれらを扱ってきた。こうした説明は、けっして成功をおさめているとは言い難い。経済活動に時間を費やすことが自ずと女性に権利を与えるわけではないし、また高い出生率は必ずしも彼女たちを無力にするわけではない。同様に、再生産に携わる時間が、生産に携わる時間を決定するわけでもない。つまり、低所得国における時間収支に関するEva Mueller (1982)の調査報告は、保育が所得創出と抵触するとは限らないということを示す。単純ないしは機械的な因果関係はありはしないが、分析はさらなる洗練を必要としているように思われる (Redclift, 1985)。

《家父長制的取り引き関係》 所与の場所や時間におけるあらゆるこうした諸関係や諸活動の全体を考察することはいかにすれば可能なか。Deniz Kandiyoti (1988)は、男性が支配するものの、女性が特別に認知された優位性を確保する「家父長制的取り引き関係 patriarchal bargain」としてそれを描写する。それは、ある地域においてジェンダー関係を調整する「諸規則」が日々の生活の中で絶えず争い、再交渉されるところのひとつの取り引き関係である。従って、こうした規則は、年齢、階級、人種ならびにエスニシティによって定められるその他の制約とならんで生産ならびに再生産における女性と男性の選択権を規定し、制限し、形づくる。

Deniz Kandiyoti (1988)は、北アフリカから、ムスリムの中東を通して、南・東(東南ではなく)アジアへ伸びる一本の帯状の地域を支配するかのような、家父長制的取り引き関係の一例を描写している。この広い地域は、大部分が父系的かつ夫方居住的である。つまり、財産は、もっぱら男性によって所有され、男系を通じて伝え残され、そして結婚に際して男性の家族と同居することはカップルにとって伝統であり、一般的である。若い花嫁たちは、彼女たちにとっての新しい家ではマイナーかつ召使的な役割に携わり、各々孤

立させられるだろう。また、女性の労働は、目にふれずかつ低く評価される。隔離、分離そしてヴェールは、女性の活動空間を制限する。女性にとっての利点は、強姦からの保護(夫によって防がれる)、そして女性の世界への引きこもりを含んでいる。女性自身が姑になると、彼女たちは彼女たちが若い花嫁としてその下で耐え忍んでいたシステムの中に既得権を得るだろう、なぜなら彼女たちは激しいルーチン・ワークから開放され、より管理的な機能を引き受けるに違いないからである (Kansiyati, 1985)。

主要な家父長制的取り引き関係は、様々なスケールにおいて認められるが、階級やエスニシティによる地域内の多様性も存在する。

《空間的分業ならびに性別分業》 インドにおける事務員や米国における医師はともに男性が支配的である。また、英国における事務員とソビエト連邦における医師はともに女性が卓越的である。こうした情報は、我々の一般的な地理学的理解の一部に違いない。就業の地理学は、当然あらゆる主要な分業を考慮すべきであるが、階級や職務による区分(「社会的」ならびに「技術的」)は社会科学の調査でこれまで支配的であって、ジェンダーや空間が注目されることはまれであった。Doreen Massey (1984)によれば、空間的分業に関する研究は現在、「誰が、何を、どこで、どのように行なうのか」ということを問う。国家、地域あるいはローカリティで特化しているのはいかなる活動なのか。国家間ないしは一国内においていかにして諸活動は配分されるのか。いかにして、こうした諸活動はジェンダー化されるのか。そしてなぜゆえに。

Doreen Masseyのいまや古典的な著作(1984)は、ローカリティを各層(レイヤー)の結合の産物として描写し、そうした各層は、長年にわたる、新しい活動形態の連続的な積み重ねを表す。新しい空間的分業は、それ以前の構造によってある程度は規定されるだろう。ジェンダー役割は、新しい空間的分業とともに変化する、もしくは新しいそれを決定する上でも助けとなるだろう。Lourdes ArizpeとJosefina Aranda (1981)は、女性の不利な立場に由来する比較優位 comparative advantage of women's disadvantageについて述べている。つまり女性であるがために、安価なあるいは労働組合化されず、あるいは現在失業中である潜在的労働力は、

新しい経済活動の立地に関する重要な因子である。また Lourdes Arizpe and Josefina Aranda (1981) はメキシコの苺産業について、Doreen Massey (1984) は英国における分工場の立地について論述しているが、両事例において新しい経済活動を引き付ける「魅力」はジェンダー不平等である。

空間的分業は、単なる雇用パターンではなく、階級関係、経済的ならびに政治的、国内的ならびに国際的な変化とリンクした闘争の結果である。同様に、ジェンダー関係は闘争の対象である。つまり、あるローカリティにおける家父長制的取り引き関係は、新しい取り引き関係への変化に際して再調整される。例えば、世界市場向けの消費財生産に携わる第三世界の女性雇用の増大は、たくさんの地理学者の関心を集めた。先在する性別役割分業は立地面でのひとつの誘引であったが、新しい未熟練労働力は、企業の従業員採用ならびに人事政策、国の介入政策、そしてローカルな家父長制的取り引き関係の再調整によってこれから影響を及ぼされるに違いない (Pearson, 1986)。

例えばマレーシアでは、家父長制的取り引き関係は、再調整のまっただ中にある。Terry McGee (1987) は、若いマレー人女性の間での化粧品のような消費財に対するニーズの創出が、若い女性を工場労働力に加入させる上で重要であったとする。しかし、こうした工場における美人コンテストの奨励は、イスラーム教徒マレー人によって反宗教的な西洋化として、そして父権的なコントロールの確固とした形態に対する挑戦として捉えられた。マレー人女性工場労働者は、現在、社会的に低いモラルを謳歌しており、もし企業がイスラームの規範に従うべきであるのなら、それを修正することができる、とイスラーム教徒マレー人女性地理学者たちは主張した (Buang, 1989)。女性たち自身は、別の解決策を求めている (Young and Salih, 1987)。

《事例研究》 英国、コロンビアそしてナイジェリアからの三つの事例研究は、ジェンダー役割と関係、家父長制的取り引き関係と空間的分業の間の相互関係の複雑性をさらに例証する。空間的分業の立場からのジェンダーの古典的な地域記述は、Linda McDowell と Doreen Massey (1984) による、英国の諸例に関する研究である。ダラム州の炭鉱村では、「国家イデオロギーとローカルな状況が、男女の生活の極端な分離に基

づく独特な一組の家父長制的な諸関係を生み出すようにともに作用した」(McDowell and Massey, 1984, p. 131)。炭鉱業が衰退した際に、新しく現われた職業は主として女性のためのものであった。そして、かつての家父長制的取り引き関係はいまや攻撃にさらされている。

コロンビアのセラニア・デ・サン・ルカス Serrania de San Lucas では、女性は現在、ダラム州の炭鉱夫の妻たち以上に所得創出活動から締め出されている。植民者たちは、森林の中に農場を開拓しようと努めている (Townsend and Wilson deAcosta, 1987)。こうした農場における女性は主婦であり、料理、掃除、洗濯、育児に長時間従事する。子供たちは、その活動空間に厳しい制約がある。というのもほとんどの女性は、洗濯時以外は家を空けることができないからである。また、ほとんどの女性は、農作業のような「生産的」労働にほとんど携わることはない。彼女たちは、これを育児の必要のためであると説明する。一方で、Heather Spiro (1987) は、ナイジェリアのヨルバ族の女性の間では、育児にのみ独占的に割り当てられる時間の総計はごくわずかに過ぎないということを発見した。女性の自由になる時間のおよそ4分の1が、農業に、そして約10%が商業に充てられた。そして、一般的に子供は一緒に同伴された。コロンビア人女性は、育児を経済活動への障害と考え、従って再生産が生産よりも優先している。だがヨルバ族の女性は、生産的活動と再生産的活動を一本の配列に結合する。仕事、余暇ならびに満足は、きわめて多様に定義される。「生産に利用可能な時間」は、「起きている時間」から「再生産に必要な時間」の引き算として読み替えることはできない。同様に、ジェンダー関係は、性別役割分業から単純に演繹されることはできない。セラニア・デ・サン・ルカスでは、所得創出活動からの分離と排除は、家族内でほんのわずかな権力を女性に授けるに過ぎないように思われる、けれども農家経営の成否は、彼女たちの再生産活動に依存し、そして中には相当強力な地位にある者もいる (Townsend, in press)。ヨルバ族の女性は多くの場合、相当な権力と自立を享受していると表現される。しかしながら、これは相対的である。農婦としての彼女たちの労働の大部分が、彼女たち自身の権利においてというよりもむしろ彼女たちの夫の助手としてである。つまり彼女たちの有する時間のわずかな部

分のみが、彼女たちが自分自身でコントロールする商業に割くことができる (Spiro, 1987)。Deniz Kandiyoti (1988) によれば、伝統的なアフリカの一夫多妻制の女性にとっての不安定さは、相対的な自立と対応している。つまり女性が生産者であり、そして彼女たちの生産物をコントロールしようとする夫による試みをはねつける。ヨルバ族の女性は、彼女たち自身の商業活動にもっと時間とエネルギーを費やすことを常に求めて、彼女たちの農作業労働の諸条件を夫と交渉する。

Deniz Kandiyotiの見地では、セラニア・デ・サン・ルカスの家父長制的取り引き関係は、男性の労働が所得創出であり、女性のそれは再生産にある。そして、女性は、戸外で作業しないことによって彼女たちの女性性を維持する。これは、彼女たちが家族の生産的労働にとっての予備労働力ではないということの意味している。女性は、彼女たち自身を抑圧されたものとしてではなく、保護されたものとして見ることによって、この状況を評価する。しかし、彼女たちは世帯所得に直に加わることができないため、「過剰な」女性は大きな負担となるため、多数の少女が都市における女中として出て行くよう促される。その結果、セラニアにおける成人の性比は、女性100に対して男性189である (Townsend and Wilson de Acosta, 1987)。

エクステンシヴなデータとジェンダーの地理学

エクステンシヴなデータの価値は、こうした複雑な相互作用の視点においては明らかに限定的であるものの、それらの適所においては引き続き有用である。我々が、表1から了解したように、ジェンダーの比較の基礎として満足できる単一の指標は存在しない。合成指標も誤った方向に導きやすい (UNINSTRAW, 1984)。合成指標を開発することによって、「女性の地位」を測ろうとするためには (Andrews, 1982; Zelinsky et al., 1982; Seager and Olson, 1986)、例えば、ある一定レベルの出産力ないし離婚の権利が、東京とティンブクトゥで正確に同じ意味を持ち、そしてそれらをうまく計算することができると仮定することが我々に必要となる。

空間的分業は地理学的分析にとってのひとつの可能性を持った枠組みを提案する、ということがここで主張されるだろう。それは、ジェンダー役割ないしは関

係を壊すことはない。しかし、ジェンダー役割と関係は、空間的分業から独立しているわけではない。つまり、我々がそのデータを得ることができれば、その片方は、もう一方を描写するための体系的な枠組みを我々に与えるだろう。

《国際比較》 国際比較は、公式データの不足により、ジェンダーの地誌学の最も困難な部分だろう。大部分の利用可能なデータは、いまなお、ジェンダーごと分けられないか、もしくは一方の性別に情報の偏りがある。例えば、雇用データは、一般的に男性について豊富であるものの、出生率の推計は男性についてはほとんど入手できない。国連国際婦人調査訓練研修所 United Nations International Research and Training Institute for the Advancement of Womenは、統計の改善のための非常に重要なマニュアルを作成したが (例えば、UNINSTRAW, 1984, 1987)、その反応は依然として不十分である。

国連婦人の10年の成果に関する評価と再検討のための国際会議 (UN, 1985) は、国民統計に「女性の無報酬の貢献」を組み入れるよう諸政府に勧告したが、何らかの動きはあったにせよ今までのところそれはわずかなものでしかない。Ray Pahl (1984) は、それでもなお不十分であると主張する。なぜなら彼の見地では、労働が再生産のみならず、消費と余暇を包含するように再定義されるという条件でもってのはじめて完全な分業が正当に評価されうるとするからである。信頼に足る世界比較 (表1) のための完全な性別役割分業に関するデータは存在しない。

1980年代、多数の低所得国は、世界銀行や国際通貨基金が奨励し、非常に狭い意味での経済の見方によって考え出された諸政策を開始した。こうした諸政策 (Jolly, 1987; Moser, 1989) は、市場向け生産の観点でのみ経済を定義して、そして多くの場合、再生産に関する悲惨な結果を伴った。多数の低所得国において、児童福祉は急激に悪化した。すなわち児童の栄養物摂取は減少し、乳児死亡率は上昇し、教育は縮小した (Comia et al., 1987, 1988)。社会的再生産においてきわめて重要である女性の労働は、この危機の中で過小評価された (Sen and Grown, 1987)。Caroline Moser (1987, 1989) によって同定された「コミュニティ管理」のような従来は不可視であった「ボランティア労働」を我々

は今では認めている。Caroline Moser and Linda Peake (1987) は、集合的消費——水、排水、保健、電気、教育、道路そして食料さえも——の供給を女性の組織的な労働に頼ることは第三世界における貧困居住地区にとって現在普通のことであると強く主張する。無給の社会的再生産ならびにコミュニティ管理は、公式統計上には依然として目に見えない。

経済活動として記録されている労働のその部分においてさえ、データは比較には不適切である。労働力の公式定義は、それ自体時代とともに大きく変化し、どの定義も世界全体に広く当てはまることはなかった (Boulding, 1983)。時代を通じた傾向としては、その定義が拡大しつつある (Beneria, 1981)。すなわち今世紀初めには、「労働力」は就業している被雇用者のみを含むに過ぎなかった。その後国際連盟は、失業者を加えることによって「労働力供給」を測ろうと努めた。また、「潜在的労働力供給」に対する戦後の関心は、不完全雇用ならびに女性の過小算定に関する研究を導いた。労働力人口の大きさ、トレンド、季節性はいまだすべて誤って評価されているだろう。経済活動に関する最良のデータは、通例15～65歳の男性に関してならびにフル・タイム、長期賃金雇用に関してのものである。そして、この核の外側では、女性、児童、老人そして他の労働形態に関するデータはかなり不正確である。質問表による調査から見出される発見は、通例がっかりさせられる。すなわち、サンパウロでは、そのセンサスは男性の労働力率（伝統的に定義されるところの）を2～6%、女性のそれを14～39%過小評価した (Leon, 1984)。ILOは、1970年時点で、イラクの農業労働力の2%が女性であったと推定したが、1971年のFAOの農業センサスは41%が女性であると評価した (Dixon-Mueller, 1986)。

性別役割分業の何らかの系統的な国際比較に関して、我々は依然、「経済活動的」労働力に関するデータに限定されている。それゆえ、我々の解釈のレベルはきわめて貧弱である。さらに、「経済活動」に関するデータは、すべての国がジェンダーによって分けられているわけでも、完全に規格化された尺度を採用しているわけでもない。従って、ILOは (ILO, 1977, 1986)、各国の産業部門別の労働力率に関する男女の推定値を公表した。図1・2および3は、1980年時点で女性が占める農業、工業、サービス業における労働力のパーセ

ンテージを示すために、1986年の推定値に基づいて算出された。

この三つの地図の最も顕著な特徴は、Ester Boserup (1970) が国や地域を横断する性別役割分業の重要性を最初に指摘して以来の豊富な研究蓄積にもかかわらず、我々がそれらを説明することから依然としてかなり遠く隔たっている。彼女は、限定されかつ多くの場合比較できないデータを用いることで、そのパターンを描き出し、説明することを試みた。そして、彼女の著作は、研究の包括的な一領域を切り開いた。それはまた、厳しい批判も導いた。すなわち彼女の一般化の多くは、極度に単純化され、支持できないというものだった (Huntington, 1975; Palmer, 1977; Beneria and Sen, 1981)。彼女の研究のあとに続いた多数の経験主義的ならびに理論的諸研究の大部分は、スケールの面ですべてローカルであり、そして一般性に対してよりも場所の持つ複雑な社会的特徴に関心が向けられた。より近年の比較研究 (Scott, 1986; Joekes, 1987) は、新しいパターンを描き出す中で社会構造と制度に強い関心を払う。

地図はまた、労働力のジェンダー化の多様性もはっきりと示す。同一国の内部でもジェンダーで区分した経済活動は、「農業」、「工業」そして「サービス業」ではまったく異なる姿を示すであろう。大陸スケールで見れば、女性はサブ・サハラでは農業部門の労働力率のかなりの部分を形成しているものの、ラテン・アメリカにおいては小さな部分に過ぎない。サービス業に関しては、こうした比率は逆転する。上に述べた「女性の不利による比較優位」は、原因と結果の複雑な地理学を有する。

現在、世界中（そして特に低所得国における）の性別分業に関する大量の利用可能な論文は、もっぱら全国スケールよりも小スケールにおいて、事例研究の理解を確かなものにしようと努めている。賃金労働に関する推計された分業についての地図は、今のところ、我々が達成することが可能な最善のものであるが、それは空間的ならびにジェンダー化された分業に他の現象を結びつける手段を我々に提供する。

《エクステンシヴなデータと国内におけるジェンダーの地理学》 インドにおける性比は、性別役割分業男性に対して数的に優位であるが、南アジアでは中国

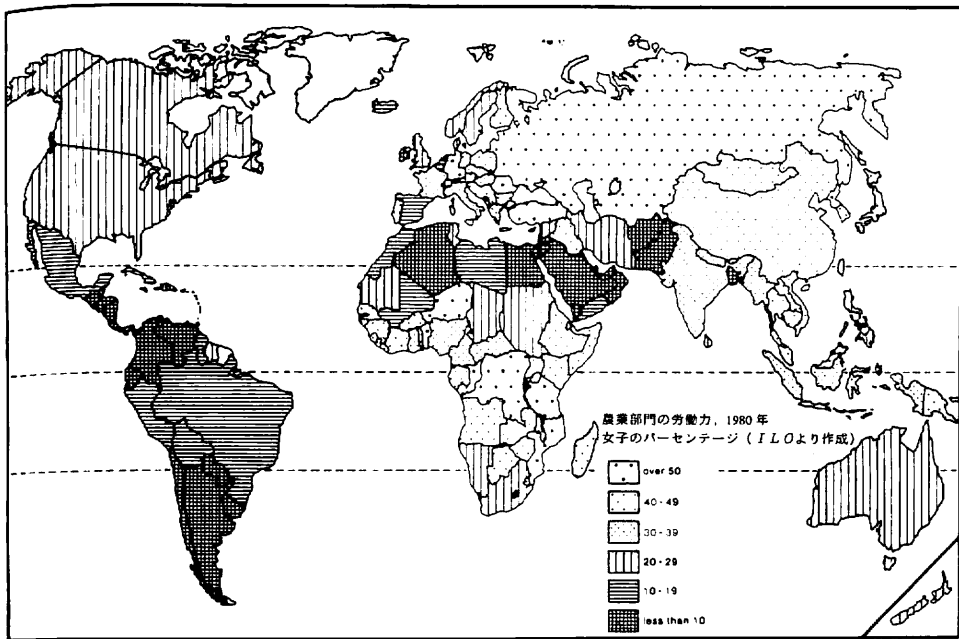


図1. 農業部門の有給労働に占める女子の割合 women's share of paid work in agriculture (1980年時点で農業、林業および漁業部門に従事する、少女および女性労働力の割合に関するILOの推計値)
出所: ILO(1986) *Economically active population estimates, 1950-2025*. Geneva: ILO

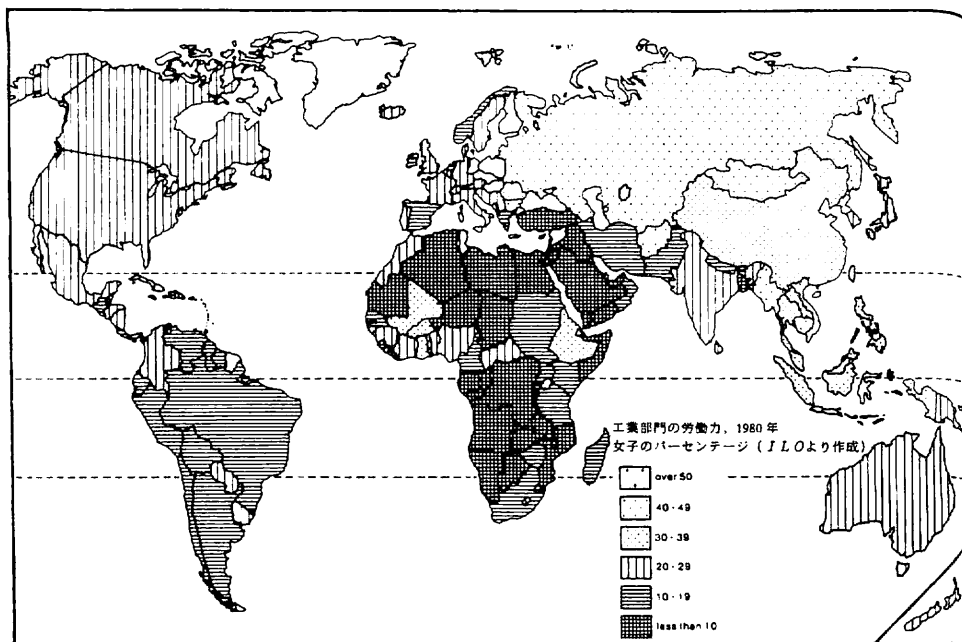


図2. 工業部門の有給労働に占める女子の割合 (1980年時点で鉱業、採石業、製造業、電気、ガス、水道業および建設業に従事する、少女および女性労働力の割合に関するILOの推計値)
出所: ILO(1986) *Economically active population estimates, 1950-2025*. Geneva: ILO

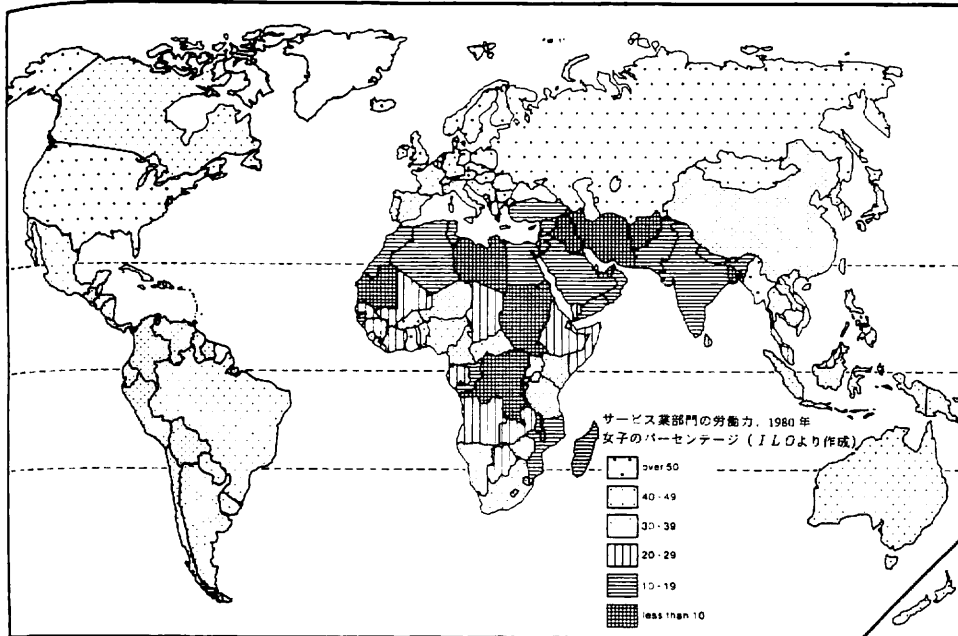


図3. サービス部門の有給労働に占める女子の割合 (1980年時点で商業、飲食業、旅館業、運輸、倉庫業、通信業、金融、保険、不動産、事業サービス、公共、社会およびサービス業に従事する、少女および女性労働力の割合に関するILOの推計値)

出所: ILO(1986) *Economically active population estimates, 1950-2025*. Geneva: ILO

や中東と同様、男性は女性に数で勝っている。南アジア内部では、この男性に偏った性比は、北部と西部の特徴であるが、男性に偏った性比を示す地域は拡大傾向にあり、さらに20世紀に相当拡大した。Mary Ellen Mazey and David Lee (1983) は、これをその地域中の住民の若さに単純に帰するが、より詳細なエクステンシヴなデータはこれを支持しない (Kynch and Sen, 1983)。Pravin Visariaの古典的な研究(1961)以来のインドのセンサス・データの分析は、住民の年齢が若いためにこうした人口が男性に偏った性比を示すわけではない、ということ明らかにする。つまり、女性の死亡率は、すべての年齢において、そして特に5歳以下の子供の間で、男性よりも高率である。地区districtレベルの地図はこれを確認する。すなわち、インドにおける10歳以下の児童の性比に関するDavid Sopher (1980)の地図は、パンジャブ、ハリヤナならびにウッタルプラデシュ西部における隣接諸地域からなるひとつの大きな塊を示し、そこでは、1961年時点で、少女各100人に対して少年は110人ないしはそれ以上であったが、南部や東部の多くの地区は少女100人に対して少年98人以下であった。

Barbara Harriss and Elizabeth Watson (1987) によって

なされたインドの性比に関する諸研究からの論評は、生物学的再生産、社会的再生産、生産、そしてジェンダー関係の間の複雑な結びつきを印象的に例証する——そして、インテンシヴ調査と同様にエクステンシヴ調査の価値を示す。人口における男性の偏倚の直接的な原因は、食料と保健医療の供給面での女性と少女に対する差別であるということが広く合意されている。その論議は、なぜ人々が差別するのかということについてである。二つの主要な説明はともに、インドにおける性比の概略図およびローカルでインテンシヴではあるが少数の優秀な研究から効果的に一般化される。ひとつは、農業生産における女性の役割から主として演繹される女性の経済的評価に性比が関係する (Miller, 1981; Bardhan, 1984)。また、生物学的再生産は、生産のニーズならびにジェンダー化された空間的分業によって一部には決定されるだろう。もうひとつは、婚嫁や相続のシステムならびに女性の自立度を強調する (Dyson and Moore, 1983)。そして、この場合、生物学的再生産は、ジェンダー関係と家父長制的取り引き関係によって多少とも決定されるだろう。

エクステンシヴなデータから得られた地図を詳細に測定することによって (Harriss and Watson, 1987)、両

説明は検証に失敗する。非常に大雑把な水準から解答を述べるならば、女性が生み出す直接的な経済的貢献がより過小な地域においては、人口に占める男性の比率はより多い。このパターンは、個々の農業地域を検討した場合には当てはまらない。つまり、女性の参加の水準と性比の間的一致は乏しい。同様に、Barbara HarissとElizabeth Watson (1987) は、北部でよりも南部において女性が権力ないしは権威に、よりアクセスを有するという証拠をほとんど見いだすことができなかった。性比の推測された原因についての地誌学における彼女たちの検討は、その関係はもっと複雑であるということを実証する。ビジノールBijnorにおける社会学者たちのマイクロレベルの研究は、同様の発見をする。つまり、さまざまなグループにおける子供たちの多様な死亡率は、嫁婚の実践も、所得創出に対する女性のアクセスも反映していない (Jeffery et al., 1989)。

インドにおける性比の問題は、ジェンダーの地理学における我々の現在の困難な状況を示す好例となる。法に反して、差別、抑圧そして排除が行なわれており、そしてインド亜大陸の多くの地域で増加している。多数の女兒が死亡しており、そしてそうした地域は拡大しつつある。これに関する情報と説明、理解は乏しく、また初歩的であり、しかるにその解決は緊急である。

国家からローカルまでのエクステンシヴなデータ

空間的分業、ジェンダー役割、ジェンダー関係、そして性比は、国際的レベルからローカルレベルにおいて、相互に影響を及ぼし合う。例えば、コロンビアは、世界経済におけるその地位の変動に対応して、急速な都市化が生じた。コロンビアでは、全国レベルの性比は女性が卓越的 (1985年センサスでは女性100人につき男性98人) でありながら、大部分の農村部は男性が卓越的である (全体で108:100; Colombia, 1986)。数多くの農村諸地域が、古典的労働力の蓄えとなっている。コロンビアにおける人口移動は、激しい。そして、人口移動の約60%が単身である。非常に小規模な農場が卓越的な地域では、平均的家族は2.5人の子供を人口移動で失なった (Ordonez, 1986)。農村地域の女性は、生産的役割や農村地域における所得に、伝統的にほとんどアクセスを持たず、それゆえ再生産の要求にとって「余剰」である女性と少女は、その世帯にとって相

当な重荷となる。こうしたジェンダー役割や関係は、女性の過剰死亡率を導く差別的な配置においてではなく、農村—都市間の人口移動に示される (Lopez and Campillo, 1985)。

就業機会の性差は、人口移動やローカル・レベルの性比の一因子に過ぎないものの、コロンビアにおいては重要である。男性人口の大部分は、高率の労働力の流入移動を伴って農村地帯に存在している。入植された新しい土地である「開拓」地域は、もちろん流入人口が多い。大雑把に言えば、男性は流入が多く、女性と少女は流出が多い。東部の開拓地域グアビアレ Guaviareでは、都市人口を含めたその性比は、125:100である (Ordonez, 1986)。

地域regionalレベルでは、中部のマグダレナMagdalena 峡谷は、過去30年にわたって大いに入植されてきた (Townsend, 1977)。三つの小規模な調査はすべて、農村人口中の男性優位な性比を見出した (Townsend, in press)。その三つの調査地域は、先述した辺鄙かつ貧しく、労働集約的なセラニア・デ・サン・ルカスから、灌漑米作のための集約的で高コストな農業のエル・ディストリオEl Distrio、そして「草の根」発展を試みる共同農場ラ・パヨアLa Payoaまで、非常な対照をなす。しかしながら、三地域すべてにおいて、女性は所得創出活動にほとんどアクセスを持たず、若い少女は都市へと出て行く。女性が家父長制的取り引き関係における変化を求めてひとつのグループを形成したのが、ラ・パヨアである。所得を創出する諸活動の訓練をしたり、再生産の条件を改善するための便所や簡易水道を建設した。

結び

たいていの場合、男性のみのデータしか利用できないために、一次調査に従事することなくして、ジェンダーを研究することは不可能である。プロセス、因果関係、そして特性の理解のためには、インテンシヴな調査が最も価値があるものの、インドにおける性比の問題によって示されたように、エクステンシヴな、つまり基礎知識を与えてくれるデータはその役割を持っている。その諸障害は克服し難いように思われるが、それらは課題として捉えられるべきである。つまり、不十分なデータは改善されなければならず、そしてジ

エンダー化された主体であることの経験は、エスニシティ、年齢、階級あるいは障害の経験——地理学者が追い求めてきた、そしてその組み合わせの中でますます追究すべき、あらゆる経験——に劣らず知ることが難しい。

地理学者は、ジェンダー役割の地理的多様性を認識し始め、生産と社会的再生産の中でのジェンダーを検討し始めた。我々は、現在になってやっと家父長制（女性の男性に対する従属の諸形態）ならびにジェンダー関係の地理学を追究している。ある意味で、我々は、ごく少数の文脈しかわからないジェンダーのローカリティ研究を行なっているといえる。地域スケールならびに世界スケールのその文脈を構築・発展することによって、より多くの諸関係の網目を理解するようになり、それこそがジェンダーの地理学である。

謝辞

Linda McDowellならびにSarah Radcliffe、Ian Simmons、Alan Townsendに厚く御礼申し上げます。ただし、いっさいの誤りと遺漏の責任は私自身にあります。

文献

- Andrews, A. 1982 Toward a status-of-women index. *Prof. Geogr.* 43(1): 24-31.
- Arizpe, L. and Aranda, J. 1981 The comparative advantages of women's disadvantages: Women workers in the strawberry export agribusiness in Mexico. *Signs* 7(2): 453-73.
- Bardhan, P. K. 1984 *Land and rural poverty*. Delhi: O.U.P.
- Beneria, L. 1981 Accounting for women's work. In Beneria, L. (ed.) *Women and development: the sexual division of labor in rural societies*. New York: Praeger.
- Beneria, L. and Sen, G. 1981 Accumulation, reproduction and women's role in economic development: Boserup revisited. *Signs* 7(2): 279-98.
- Boserup, E. 1970 *Women's role in economic development*. New York: St Martin's Press.
- Boulding, E. 1983 Measures of women's work in the Third World. In Buvinic, M., Lycette, M. A. and McGreevey, W. P. (eds) *Women and poverty in the Third World*. Baltimore: Johns Hopkins University Press.
- Bowlby, S., Lewis, J., McDowell, L. and Foord, J. 1989 The geography of gender. In Peet, R. and Thrift, N. J. (eds) *New models in geography*, Vol. 2. London: Unwin Hyman.
- Brydon, L. and Chant, S. 1989 *Women in the Third World: gender issues in rural and urban areas*. Aldershot: Edward Elgar.
- Buang, A. 1989 Development and factory women- Negative perceptions from a Malaysian source area. Paper presented at the Commonwealth Geographical Bureau workshop at the Commonwealth Geographical Bureau workshop on gender and development, Newcastle-upon-Tyne, April.
- Cater, J. and Jones T. 1989 *Social geography*. London: Edward Arnold.
- Colombia, 1986 *Colombia: XV censo nacional de poblacion y vivienda*. Bogota : DANE.
- Cornia, G. A., Jolly, R. and Stewart, F. (ed.) 1987, 1988 *Adjustment with a human face*. Vols 1, 2. Oxford: O.U.P.
- Dixon-Mueller, R. 1986 *Women's work in third World agriculture*. Geneva: ILO.
- Dyson, T. and Moore, M.P. 1983 Kinship structure, female autonomy and demographic behaviour, *Populat. and Devel. Rev.* 9(1): 35-60.
- Gibson, A. and Fast, T. 1986 *The women's atlas of the United States*. New York: Facts on File.
- Gruntfest, E. 1989 Geographic perspectives on women. In Gaile, G. L. and Willmott, C. J. (eds) *Geography in America*. Columbus, USA: Merrill.
- Harriss, B. and Watson, E. 1987 The sex ratio in South Asia. In Momsen, J. H. and Townsend, J. G. (eds) *Geography of gender in the Third World*. New York: State University of New York Press: London: Hutchinson Education.
- Huntington, S. 1975 Issues in women's role in economic development: critique and alternatives. *J. Marriage and the Family*. 37: 1001-12.
- ILO 1977 *Labour force estimates and projections, 1950-2000*. Geneva: ILO.
- , 1986 *Economically active population estimates, 1950-2025*. Geneva: ILO.
- Jeffery, P. J., Jeffery, R. and Lyon, A. 1989 *Labour pains and lanour power: women and childbearing in India*. London: Zed.
- Joekes, S. 1987 *Women in the world economy: an INSTRAW Study*. New York, Oxford: O.U.P.
- Jolly, R. 1987 Women's needs and adjustment policies in developing countries. Address given to Women's Development Group, OECD, Paris.
- Kandiyoti, D. 1985 *Women in rural population systems*. Paris: UNESCO.
- , 1988 Bargaining with patriarchy, *Gender and Society*, 2(3): 274-90.
- Kynch, J. and Sen, A. 1983 Indian women, wellbeing and survival, *Cambridge J. Econ.* 7: 363-80.
- Lee, D. 1990 Women and geography: a comprehensive bibliography. Mimeo, made available by GPOW from David Lee, Department of Geography, Florida Atlantic University, Boca Raton.

- Leon, M. 1984 Measuring women's work; methodological and conceptual issues in Latin America, *Bull. Inst. Devel. Stud.* 15(1): 12-17.
- Lopez, C. and Campillo, F. 1985 Problemas terribles y operativos en la ejecucion de una politica para la mujer campesina. In Bonilla, E. (ed.) *Mujer y familia en Colombia*. Bogota : Plaza and Janes.
- McDowell, L. and Massey, D. 1984 A woman's place? In Massey, D. and Allen J. (eds) *Geography matters*. Cambridge: C.U.P.
- McGee, T. G. 1987 Mass markets - little markets: a call for research on the proletarianization process, women workers and the creation of demand. In Momsen, J. H. and Townsend, J. G. (eds) *Geography of gender in the Third World*. New York: State University of New York Press; London: Hutchinson Education.
- Mackenzie, S. 1989 Restructuring the relations of work and life. In Kobayashi, A. and Mackenzie, S. (eds) *Remaking human geography*. Boston: Unwin Hyman.
- Massey, D. 1984 *Spatial divisions of labour: social structures and the geography of production*. London: Macmillan.
- Mazey, M. E. and Lee, D. R. 1983 *Her space, her place: a geography of women*. Washington: AAG Resource Paper.
- Miller, B. 1981 *The endangered sex: neglect of female children in rural north India*. Ithaca, New York: Cornell University Press.
- Moser, C. O. N. 1987 Women, human settlements and housing: a conceptual framework for analysis and policymaking. In Moser, C. O. N. and Peake, L. (eds) *Women, human settlements and housing*. London: Tavistock.
- , 1989 Gender planning in the Third World: meeting practical and strategic gender needs. *World Devel.* 17(11): 1799-1825.
- Mueller, E. 1982 Women's time and its relation to fertility. In Anker, R., Buvinic, M. and Youssef, N. H. (eds) *Women's roles and population trends in the Third World*. London: Croom Helm.
- Ordonez, M. 1986 *Poblacion y familia rural en Colombia*. Bogota : Universidad Javeriana.
- Pahl, R. 1984 *Divisions of labour*. London: Macmillan.
- Palmer, I. 1977 Rural women and the basic needs approach to development. *Int. Labour Rev.* 115(1): 97-130.
- Pearson, R. 1986 The greening of women's labour. In Purcell, K. et al. (eds) *The changing experience of work*. New York: Sheridan House; London: Macmillan.
- Pudup, M. B. 1988 Arguments within regional geography. *Prog. Hum. Geogr.* 12(3): 369-90.
- Radcliffe, S. A. 1986 Gender relations, peasant livelihood strategies and migration: a case study from Cuzco, Peru. *Bull. Latin Am. Res.* 5(2): 29-48.
- Radcliffe, S. A. with Townsend, J. G. 1988 *Gender in the Third World: a geographical bibliography of recent work*. Brighton: Institute of Development Studies, Development Bibliography No 2.
- Redclift, N. 1985 The contested domain: gender, accumulation and the labour process. In Redclift, N. and Mingione, M. (eds) *Beyond employment: household, gender and subsistence*. Oxford: Blackwell.
- Sayer, A. 1984 *Method in social science*. London: Hutchinson.
- , 1989 The "new" regional geography and problems of narrative. *Society and Space* 7: 253-76.
- Scott, A. 1986 Industrialization, gender segregation and stratification theory. In Crompton, R. and Mann, M. (eds) *Gender and stratification*. Cambridge: Polity Press.
- Seager, J. and Olson, A. 1986 *Women in the world: an international atlas*. London and Sydney: Pan.
- Sen, G. and Grown, C. 1987 *Development, crises and alternative visions: Third World women's perspectives*. New York: Monthly Review Press.
- Shortridge, B. G. 1986 *Atlas of American women*. New York and London: Macmillan.
- Sopher, D. 1980 The geographical patterning of culture. In Sopher, D. (ed.) *An exploration of India: geographical perspectives on society and culture*. London: Longman.
- Spiro, H. 1987 Women farmers and traders in Oyo state, Nigeria. In Momsen, J. H. and Townsend, J. G. (eds) *Geography of gender in the Third World*. New York: State University of New York Press; London: Hutchinson Education.
- Townsend, J. G. 1977 Land and society in the middle Magdalena valley, Colombia. Unpublished D.Phil. thesis, Oxford.
- , 1988 *Women in developing countries: a select, annotated bibliography for development organisations*. Brighton: Institute of Development Studies, Development Bibliography No 1.
- , In press. Housewifisation in the Colombian rainforest.
- Townsend, J. G. and Wilson de Acosta, S. 1987 Gender roles and colonisation of rainforest. In Momsen, J. H. and Townsend, J. G. (eds) *Geography of gender in the Third World*. New York: State University of New York Press; London: Hutchinson Education.
- UN, 1985 *The Nairobi forward-looking strategies for the advancement of women*. New York: United Nations.
- UNINSTRAW (United Nations International Research and Training Institute for the Advancement of Women), 1984 *Compiling social indicators on the situation of women*. Santo Domingo: INSTRAW.
- , 1987 *Report of the national training workshop on statistics and indicators on women and development*. Santo Domingo: INSTRAW.
- USAID, 1984-5 *Women of the world, including A chartbook for developing regions*. Washington, D.C.: US Government Printing Office.
- Visaria, P. M. 1961 *The sex ratio of the population of India*. New Delhi: Census of India, Monograph No 10.
- Waring, M. 1989 *If women counted: a new feminist economics*. London: Macmillan.
- Wharmore, S. J. 1990 *Farming women*. London: Macmillan.
- Young, M. L. and Salih, K. 1987 The Malay family: structural change and transformation—a research proposal. In Momsen, J. H. and Townsend, J. G. (eds) *Geography of gender in the Third World*.

New York: State University of New York Press; London: Hutchinson Education.

Zelinsky, W., Monk, J. and Hanson, S. 1982. Women and geography: a review and prospectus. *Prog. Hum. Geogr.* 6(3) 317-66.

解題 (吉田 雄介)

いまやジェンダー(社会・文化的性差)は、流行語になった感がある。一方、地誌学は地理学の伝統的な側面を担っており、正直なところ両者の接点を探ることは一見奇妙な作業に感じられるのではないか。しかし、本論文の主眼は、ジェンダー概念を踏まえながら、スケール横断的な地誌学の利点を生かして、国際比較と局地的な事例研究の双方を組み合わせようとするところにある。それゆえ、成功度はさておき、それだけで貴重な論文であるといえよう。

ここに掲載された地図は一見平凡なものに見える。確かに、地理学の責務のひとつが視覚化であるならば、これだけでは見えないものが一目瞭然になったとはいえない。それゆえ、その背後に不可視的に存在するジェンダー関係と役割を考慮する必要がある(ここで、個別具体的な事例研究を利用することになる)というわけである。よって、ジェンダーは他の諸要素同様に、地域記述の重要な要素といえる。

なお、著者であるタウンセンドは、1987年にはモムセンとともに、*Geography of gender in the Third World*(さまざまな第三世界諸国の研究を含む20本の論文集)を、また1988年にはラドクリフとともに、*Gender in the Third World: A Geographical Bibliography of Recent Work*(多数の文献を網羅した第三世界のジェンダーに関する地域別文献目録)を編んでおり、途上国と女性の双方に一貫して深い関心を寄せてきた人物である。

この論文の背景にふれておけば、国連婦人年ならびに国連婦人の十年を経て、途上国の女性が可視化して

きたという事情がある。これは、第一点には、女性(特に、農村地域の)が同時に三つの役割一再生産者(生物学的ならびに社会的)／生産者(農業生産、商業、その他)／コミュニティ管理者(村落共同体維持に必要な共同作業)一を果たしているという事実の可視化と、第二にジェンダーを考慮した統計の発展(いまだ不備ではあるが)が挙げられよう。

ただし、残念ながら、本論文以降も国際比較を重視したジェンダー地誌的な研究はやはり少ないようである。そこで直接的な本論文の貢献ではなく、間接的な可能性について私の意見を最後に述べておこう。著者も指摘するように、以前に比べればまだしもやはりジェンダーを考慮した統計の整備は遅々としている。しかしそれ以上に、本論文の扱うような主題の含み持つイデオロギー的な側面の問題が大きいのではないだろうか。まず、著者が述べるように、ジェンダー関係は性別間の権力関係であり、闘争の対象である。それ以外にも、例えば第三世界の女性を扱うことはそのまま開発問題にも直結しており、これは特定の関心や目的などイデオロギー的側面を無視することができなくなることを意味する。すなわち途上国開発に関する政策(例えば、厚生アプローチ、効率アプローチ、エンパワメント・アプローチ)や学派(例えば、古典派、応用派)の錯綜した状況をみれば明らかであろう。そして、こうした問題は研究対象のみならず研究者自身の問題にも直結しているはずである。

よって、この論文の持つ限界と可能性は両義的である。ジェンダー概念には地誌学的なマルチ・スケールな視点の導入を促すことであろう。一方、地誌学については、筆者の意図を超えて、研究者の立場性や客観性といった問題を顕在化させ始めるだろう。そしてそれは地誌学の変革を自ずと惹起するに違いない。